

平成 28 年 7 月 8 日

今後取り組むべき学術研究に関する施策について

(学術研究懇談会 RU11)

学術研究懇談会 (RU11) は、国立・私立の設置形態を超えた 11 の大学 (北海道大学、東北大学、筑波大学、東京大学、早稲田大学、慶應義塾大学、東京工業大学、名古屋大学、京都大学、大阪大学、九州大学) による学術の発展を目的としたコンソーシアムであり、研究及びこれを通じた高度な人材の育成に重点を置き、独創性豊かで多様な研究成果を発信し続けています。

今後も、大学が社会からの要請に応える価値ある存在としてさらに発展するため、以下の提言を取りまとめました。関係各位には是非お目通しいただき、「知の拠点」として我が国の発展を担う大学に対し、格別のご理解とご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

【提言】

- ・自由な発想に基づく学術研究の拡充ならびに人文・社会科学系研究の推進について (学術政策)
- ・我が国の科学研究の根幹を担うために (研究資金制度)
- ・次世代を切り開く優秀な博士人材の持続的活躍のために (若手研究者支援)

【見解】

- ・世界大学ランキングに対する RU11 の見解について

学術研究懇談会 (RU11)

北海道大学理事・副学長	川端 和重
東北大学理事	伊藤 貞嘉
筑波大学理事・副学長	三明 康郎
東京大学理事・副学長	保立 和夫
早稲田大学副総長	橋本 周司
慶應義塾常任理事	真壁 利明
東京工業大学理事・副学長	安藤 真
名古屋大学理事・副総長	國枝 秀世
京都大学理事・副学長	湊 長博
大阪大学理事・副学長	八木 康史
九州大学理事・副学長	若山 正人